

地域資源を活かしたまちづくり
循環型バスの運行による観光客誘致と地域の活性化

1. 概要

久留米市は、中核都市に移行し来年春には新幹線も開通する。農業生産量が多く道の駅「くるめ」も賑わっている。田主丸地域では、巨峰や柿などのフルーツ産業が盛んであり、果物狩りの観光客が多くなっている。また、ワイン工場などもあり、はぜ並木などの観光資源も多い。

また、有数の酒所にもなっており、善導寺・北野方面と三潞・城島方面に多くの造り酒屋がある。

2. 循環型バスの導入

JR 久留米駅と西鉄久留米駅を拠点とした循環型バスを計画する。

① 2月～3月は、「酒蔵開き号」として、毎週土・日の運行

1 コースは、**JR** 善導寺駅～田主丸駅～酒蔵

2 コースは、西鉄三潞～**JR** 荒木～酒蔵

② 4月～6月は、市内循環便

JR 久留米～篠山城跡～寺町～石橋文化センター～地場産

③ 9月～11月は、「フルーツ号」

田主丸駅よりフルーツ園の循環

3. 循環型バスの経営

① バスは、久留米市などから借用する。

② 経営は、**NPO** 法人等により行ない、運転手は経験のある退職者より募集した嘱託待遇とするが、ボランティアの充実感が得られるように工夫する。

③ ガイドは、ボランティアによる。

④ 酒蔵やフルーツ園農家から負担金を頂く（宣伝費として）

⑤ 各種企業から協賛金の寄付を募り、バス内で宣伝・掲示する。

4. サポート体制

① 循環型バスの運行期間は、各地域の祭りなどを開催し、沿線での販売や祭りなどの企画を計画する。

② 宣伝活動を久留米市と **NPO** が主体となって実施する。

③ **JR** や西鉄と共同して、ウォーキング大会やお祭りなどの協力を行なう。

④ 各地域での催しをプロデュースして、久留米市内の催しと一体的な体制を構築する。

以上